

2024年問題

物流不安解消へ企業連携

食品大手、合同で効率化

政府が来年からトラック運転手の残業規制を強化する影響で、深刻な人手不足が懸念される物流の「2024年問題」。運転手の負担軽減へ、荷主の大手各社が協力し、配送効率化を模索している。デジタル技術で急な発注を減らすサービスなども注目されそうだ。

■負担減
味の素やカゴメ、ハウス食品グループ本社など食品大手6社は16年から、物流の環境改善に連携して取り組んでいる。

北海道と福岡県に、6社の製品をまとめて保管する合同拠点を設置。同じトラックに荷物をまとめて配達でき、1社ごとの配送より台数を減らせる。北海道で



トラックの荷台に並べられたダンカー(下)。上に別の荷物を段積みできる(画像の一部を加工しています)

は6社の従来の総計から約2割削減。業務簡素化へ、納品伝票の書式も統一した。

この背景には、加工食品の積み荷は会社ごとに大きさが異なり、納品先での積み替えなどに時間がかかる事情があった。30分で済む荷降ろしが、順番待ちで7時間も待機させられた事例もあり、物流の現場からは「加工食品から撤退したい」と悲鳴が出ていた。

メーカー側は「負担減は喫緊の課題。各社で協力すべきだ」(味の素の担当者)と手を取り合った。独自判断で、商品名は箱の右上にまとめて記載し、裏に見分けられる工夫を始めた社もある。

■圧縮

物流業界は低賃金や高齢化に加え、納品先での検品作業などで運転手にかかる負担が重い。

IT企業のYEDigital

は、運転手の負担を軽減するサービス「ミルフィー」を開発。畜産農家が飼料を保存するタンク内にセンサ

ーを取り付け、パソコンなどで餌の残量を簡単に確認できる。

■積載増

アルミ製品製造のエーディエフ(大阪市)は、車にアルミと樹脂製のパネルを組み立てて箱の形にし、多くの荷物を積み込める物流ボックス「ダンカー」を開発した。

アルミと樹脂製のパネルを組み立てて箱の形にし、食品や部品などの荷物を入れてトラックへ。上に別の荷物を「段積み」しても荷崩れや破損を起こさないため、積載量が増加。「この1年間で売り上げは約2倍に伸びました」(担当者)

×
2024年問題 配送遅延で市民生活が影響を受け

る恐れがあり、政府・業界の対応が課題だ。